

1 はじめに

本校は、関西国際空港の対岸の泉佐野市に位置している。泉佐野地域は繊維産業・紡織機械・ワイヤーロープ・自転車用スポーク等の製造業を中心とした中小企業の町として発展してきた。しかし、近年の産業構造の急激な変化や厳しい経済状況等から地域の産業が低迷している。

このような状況において、本校は、次の目標のもとにインターンシップを実施している。

研究目標

地域との連携

確かな職業観・勤労観の育成、職業適性判断能力の育成、さまざまな世代の人々とのコミュニケーション能力の育成
地域の企業や職業についての理解
中学校と高等学校との連携のあり方
教育課程上の位置付け

2 学校の概要

本校は、大正14年(1925年)に地域の繊維産業を支える技術者を養成するために設置された。大阪府で最南端の工業高校で、地域に根ざした、開かれた工業高校を目指している。

専門学科と在籍数(平成15年1月現在)は次のとおりである。

(内数)女子

	1年	2年	3年	合計
電子機械科	80	77	112	269
電気科	78(3)	79(1)	66(1)	223(5)
テキスタイル工学科	76(21)	68(28)	63(19)	207(68)
合計	234(24)	224(29)	241(20)	699(73)

電子機械科は平成14年度をもって3クラス規模終了

教員数は次のとおりである。(平成14年度現在)

校長	教頭	事務部長	教諭	養護教諭	講師	実習助手	行政職	合計
1	1	1	58	1	6	4	8	79

3 活動の概要

(1) 学校支援委員会の組織・運営

平成12年12月にインターンシップを実施することを決定し、地域と連携したものとするために平成13年2月に「泉佐野地域インターンシップ連絡協議会」を設立した。

構成団体は次のとおりである。

泉佐野商工会議所
泉佐野公共職業安定所
泉佐野市役所市民産業部商工観光課
大阪府立佐野工業高等学校

協議会推進協力者として(平成14年2月より)

泉佐野市教育委員会
泉佐野市立中学校5校
泉佐野市内の府立高等学校2校

各年度の連絡協議会の概要は次のとおりである。

平成14年度開催分

実施回	日時・場所	参加団体名等	協議内容の概要
1回目	4月30日 佐野工業高等学校	商工会議所 公共職業安定所 市役所 市教育委員会 中学校5校 府立高等学校2校 府立佐野工業高等学校	・本年度分の府立佐野工業高等学校のインターンシップについて ・中学校における職場体験事業について
2回目	6月27日 佐野工業高等学校	企業等4団体 商工会議所 公共職業安定所 市役所 市教育委員会 中学校5校 府立高等学校2校 府立佐野工業高等学校	・府立佐野工業高等学校のインターンシップの具体的実施内容について ・市内における職場体験事業及びインターンシップ事業について
3回目	2月5日 佐野工業高等学校	企業等4団体 商工会議所 公共職業安定所 市役所 市教育委員会 中学校5校 府立高等学校2校 府立佐野工業高等学校	・府立佐野工業高等学校のインターンシップの報告 ・地域における職場体験事業及びインターンシップ事業について ・豊かな体験推進事業における中学校・高等学校との連携について

(企業等4団体は全て異なる。)

(2) 佐野工業高等学校のインターンシップ等の概要
インターンシップについて

平成13年2月に「泉佐野地域インターンシップ連絡協議会」を設立し、インターンシップに協力を得られる企業を募るため453社にアンケートを実施した。その結果、37の企業から受諾を得た。

インターンシップは、第2学年で希望制で実施することになった。また、業種も工業関係に限定せずに実施した。インターンシップの実施時期、実施した企業等は次のとおりである。

	実施時期・日数	主な受入企業等	事業所数	参加人数
平成14年度	7月11日～7月18日 の間で2～3日間 12月16日～12月17日 の2日間	織物業、食品製造業、 中央保育所、さくら幼稚園、 スポーツ用品販売店 等	25	55

平成14年度は、企業数も25社と増えてきた。また、夏季休業前のみの実施から冬季休業前にも実施時期を増やしてみた。

企業・生徒のアンケート結果では、インターンシップが所期の目的を果たしていることが毎回、明確になっている。

インターンシップの賠償責任保険は加入した。

写真は平成14年度インターンシップ風景である。



インターンシップ企業懇談会について

泉佐野地域インターンシップ連絡協議会は、インターンシップの受諾企業と本校のインターンシップ委員会と第2学年担任団との懇談会を企画した。これは、インターンシップの趣旨の確認と、インターンシップの普及・発展等の啓発を目的として行った。

開催月日 平成13年12月13日

開催場所 泉佐野市立生涯学習センター

参加団体 受諾企業5社

泉佐野商工会議所

泉佐野公共職業安定所

泉佐野市役所市民産業部商工観光課

大阪府立佐野工業高等学校（インターンシップ委員会・第2学年担任団）

企業懇談会において、企業からの意見・要望の特徴的なものを紹介する。

- ・公共奉仕のためインターンシップを実施した。
- ・当社は地元に着実にいきたいと考えている。そのために地元の若者を育てていきたい。
- ・最近の生徒は、就職前の社会マナーが不足している。
- ・あくまで地域密着型のインターンシップを貫くべし。
- ・インターンシップ先の開拓を生徒にやらせてみてはどうだろうか。
- ・企業が学校に行き、インターンシップのための会社紹介、実習内容等の説明をしてもよいのでは。

といった貴重な意見・要望が出され、次年度のインターンシップを実施する上で大いに参考になった。学校が企業と、ひとつのテーブルで生徒のためにいろいろ協議することはインターンシップにおける所期の目的以外の成果もあった。

なお、「インターンシップ企業懇談会」は、その後、定期的に行うインターンシップ連絡協議会に企業等も参加していただくようになり、その開催形式を変更した。

第1学年への報告会の開催について

毎年、インターンシップ経験者による報告会を第1学年に行っている。平成14年度は2月にLHRを使い、クラス単位で各クラス3名～5名の生徒が教室で報告・体験談を説明し、インターンシップへの動機付けを行った。

4 今後の展望について

(1) インターンシップ受諾企業数の拡大(企業等への啓発活動)

今年度は、生徒の希望を一部取り入れ、新規の企業にインターンシップの申し入れを行い、実施が可能になった例もあった。今後、生徒の希望に沿ったインターンシップも視野に入れながら受諾企業の拡大を図りたい。

(2) 生徒・保護者への啓発活動

現在、希望制で実施しているが、将来は全員のインターンシップを考えている。それには検討が必要である。

(3) 中学校の職場体験事業と高等学校のインターンシップの関連

本校では、平成15年度より、今まで以上に職場体験を経験した生徒が入学してくる。中学校の職場体験と高等学校のインターンシップの目的等を明確にする必要がある。

これらの課題を解決していくためには、本協議会が企業等と学校の相互のパイプ役になり、より発展し定着するよう期したい。

また、本事業は、スタートして2年目であり、試行錯誤しながら実践している。本事業を進めるには地域の企業・団体等の協力は不可欠である。豊かな体験活動を発展的に継続するためには、連絡協議会が企業等との連携を密にするとともに、泉佐野地域におけるネットワーク化が必要であると考えらる。